



おぐら
尾倉

校訓
自主
創造
協力



令和3年5月17日(月)発行
校長 栗原 博 巳
〒901-8501 北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

＜学校教育目標＞

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

＜目指す生徒像＞

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
 - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
 - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

「尾倉中の生徒の『すごさ』と読んでほしい新聞記事」

5月の半ばが終わろうとしています。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言のため、1年生のふれあい合宿も中止になりました。また、部活動の練習試合、他校との合同練習、上位の大会に繋がらない大会の出場も自粛しなければいけません。このような中、尾倉中学校の生徒の「すごさ」を毎日感じているのは先生だけでしょうか。まず、朝早く来る生徒が多いこと、授業のチャイム席もきちんと守れること、給食の残食が(ほとんど)ないこと、授業中の態度が素晴らしいこと、部活動の取り掛かりが早く、挨拶もすばらしいこと・・・このような変化のない毎日を一生懸命過ごしている姿に感動すら覚えます。「あたりまえのこと」を「着実に」これが尾倉中学校の「すごさ」です。北九州で一番です!いつも言っていますよね、自信とプライド、素晴らしい生徒たちです!

さて、今日は(少し前の話ですが・・・)4月1日の西日本新聞に掲載された「春秋」から紹介します。4月1日といえば、エイプリルフルです。この日は「うそ」をついてもいい日とされています。「うそ」は、基本的には「人を傷つけるもの」です。が、今日紹介する「うそ」はみんなを「幸せにするうそ」です。生徒の皆さんも保護者の方と一緒に読んで、考えてみましょう。

(春秋)西日本新聞 2021.4.1 記事より

「お父さんはちょっと遠いところでし仕事をするようになったから、お母さんと元気に過ごしてね。」父親は2歳の息子に話しかけた。まだ幼かった男の子は覚えていないが、母親のスマホに録画されていた。

後に動画を見た男の子の心に、その言葉は響いた。実はうそだったから。白血病だと分かった父親が、入院した当日に息子に残した言葉だった。一週間後、父親は帰らぬ人に

日本語検定委員会が昨年募集した第12回日本語大賞で最優秀賞(文部科学大臣賞)を受賞した茨城県古河市立古河第二小学校一年の佐藤 亘紀(さとう こうき)君(7歳)の作品「おとうさんにもらったやさしいうそ」から「おとうさんは、あえないあいだにぼくがかなしまないように、わざとうそをつきました」

亘紀君は亡き父に伝えたいことがある。「おとうさん、うそがばれてるよ! だってまわりにびょういんのどうぐがいっぱいあるし、おとうさんがよこになっているし、めからなみだがちょっとだけでているし、こえがさびしそうだから。」

でも、亘紀君はだまされたふりを続けようと思っている。「おとうさんがやさしいうそをついてくれたおかげで、ぼくのころはつよくなれています。これからもおとうさんのことばをまもっておかあさんとげんきにすごしたいです。おとうさん、やさしいうそをありがとう。」

今日はエイプリルフル。大切な人を悲しませず、心を強くしてくれる。そんなやさしい「うそ」もある。

以下は、佐藤 亘紀(さとう こうき)君が書いた原文です。

おとうさんにもらったやさしいうそ 古河市立古河第二小学校 小学一年 佐藤 亘紀

ぼくのころにひびいたことばは、「おとうさんは、ちょっとおいとこで、しごとをすることになったから、おかあさんとげんきにすごしてね。」です。そのときぼくは二さいでした。とても小さかったので、ちょくせついわれたのは、おぼえていませんが、いつか聞いたときのとうがが、おかあさんのスマホにいまでものこっているの、すきなときにきくことができます。

このふつうにおもえることばが、ぼくのころにひびいたりゆうは、じつは、これが、おとうさんがついたうそだったからです。このことばの一しゅうかんごに、おとうさんははつけつびようで、しんできました。そして、このことばをおとうさんがのこしたのは、びょうきがわかって、にゆういんした日でした。

おとうさんは、あえないあいだにぼくがかなしまないように、わざとうそをつきました。うそはふつうよくないけど、これは、おとうさんが、ぼくのためについてくれたやさしいうそだとおもいます。このことばをどうができくと、おとうさんにあってみたくて、すこしかなしいきもちになります。でもかなしいだけじゃなくて、かなしませないように、うそをついてくれたおとうさんのやさしさをおもって「がんばろう!」とおもえます。おとうさんがしんできましたことは知っているけど、おとうさんのうそがほんとうになって、いつかよるおそくにドアのまえで「ドアをあけて。かえってきたよ。」と知っているおとうさんにあいたい。こうおもえるのも、おとうさんのやさしいうそのおかげです。

ぼくからおとうさんにつたえたいことがあります。「おとうさん、うそがばれてるよ! だってまわりにびょういんのどうぐがいっぱいあるし、おとうさんがよこになっているし、めからなみだがちょっとだけでているし、こえがさびしそうだから。」でもぼくは、だまされているふりをしつづけようとおもいます。

おとうさんがやさしいうそをついてくれたおかげで、ぼくのころはつよくなれています。これからもおとうさんのことばをまもって、おかあさんとげんきにすごしたいです。おとうさん、やさしいうそをありがとう。